

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	伊藤 旭人	学校名	上川町立上川小学校
実施学年	第6学年	教科	社会科
単元名	戦争と人々の暮らし		

《学びを深めたいポイント》

本実践では、単元の導入で児童の疑問や気づきから学習問題を作成し、追究の視点を明確にした後、自由進度学習を行った。①日中戦争について②第二次世界大戦、太平洋戦争について③戦争の人々の暮らしへの影響④どのように戦争は終わったのか、の4つの問いを5時間の中でそれぞれ解決することができるように、自分で学習計画を立て、学習を進めることを大切に。その際、個で学習を進めるのか、他者と協働で学びを進めるのか、自分で選択しながら学習を進めることができるようにも配慮した。つまり、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図ることができるよう、自由進度学習を取り入れ、主体的に問題解決に向かうことができるようにしたり、個の学びを共有する中で自分の学びを修正したり、知識を深めたりする態度を育成したいと考えた。

さらに、4つの問いに対する答えを1枚のワークシートに蓄積していき、単元の終末では、それを生かして学習問題に対する答えをまとめることができるようにしたいと考えた。

《SKYMENU 活用のポイント》

これまでの実践では、同様の単元の流れであっても、児童が追究したことはノートにまとめ、それをもとに協働的に学びにつなげ、各時間の問いや学習問題のまとめにつなげていくことが多かった。しかし、ここで課題として見られたのが、単元の終末に学習問題に対する答えをまとめていく際に、それまでの学びを効率的にまとめていくことに困難を示す児童が見られたということである。各時間の学びを関連付けながら、単元のまとめに向かうことができるようにすることが大切だと考えた。

そこで、本実践では SKYMENU の「発表ノート」の機能を主に活用した。先述の通り、単元の導入で学習問題を作成し、追究の視点がはっきりした段階で、デジタルワークシートを作成した。デジタルワークシートに記載したことは、①単元の学習問題②4つの問いのまとめを書く欄③学習問題のまとめを記載する欄であり、それを発表ノートに貼り付け、児童に配付し、それに書き込んでいくようにした。教科書や様々な資料で調べたことはノートにまとめつつ、まとめについては、必ず発表ノートのデジタルワークシートに記入していくこととした。

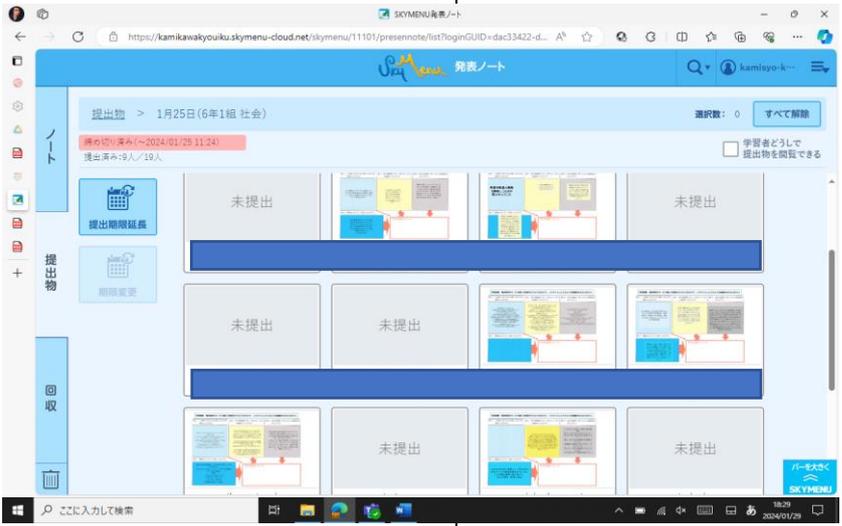
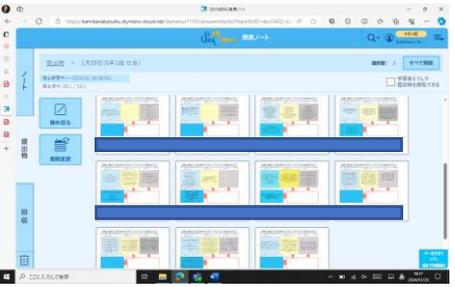
さらに、本実践では、自由進度学習という形をとったが、学習を進めていく上での約束事として、

- ① 調べ学習の際は、いつでも誰とでも交流してもいい。(もちろん先生も OK)
- ② 各問いのまとめを記入した段階で逐一提出ボックスに提出すること
- ③ 提出されたものは他者と共有できるようにしておくので、自由に見てもいい(見てもわからないことは質問する)

の3点を共通理解を児童と共通理解してからスタートした。

このような約束事を設定することで、学びの孤立化を防ぐこと、教師側が児童の学びを把握しやすいようにすることをねらいとした。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1 前時で学習した内容を確認する。(発表ノートの共有)</p> <p>2 本時の課題を確認する。 ○前時の振り返りをもとに、本時の課題を自分で設定する。</p>	 <p>※前時で自分が調べた視点についてまとめたものと他者がまとめたものを見比べることも目的としている。</p>	<p>前時でデジタルワークシートに書き込んだものを活用し、それぞれ、どのような学習をしたのか振り返り、本時の学習の見通しをもつ。</p>
	<p>例1) 日中戦争はなぜはじまったのか、そしてどのような戦争だったのか調べよう 例2) 戦争が人々に与えた影響について調べよう。</p>		
展開	<p>3 自分の課題に沿って追究する。 ○教科書や資料集、インターネットのサイトで調べたことをノートにメモしていく。 ○必要に応じて、他者と交流し、疑問を解決していく。</p> <p>○自分の課題が解決できそうになった段階で、デジタルワークシートの該当部分にまとめを打ち込む。 ○まとめを打ち込んだら、「提出ボックス」に提出する。</p> <p>4 時間に余裕がある場合は、次の課題を設定し、追究活動を続ける。</p>		<p>○適宜提出されたデジタルワークシートだけでなく、「画面一覧」の機能を使い、児童の学習状況を把握することに努める。</p>
まとめ	<p>5 時間になった段階で全員デジタルワークシートを提出し、本時の学びを振り返る。</p> <p>6 本時のふりかえりをする。 ○本時の追究活動を通して感じたこと、考えたことを端末に打ち込み蓄積していく。</p>		<p>○授業の終わりに必ず提出させることで、児童一人一人の学びを把握し、次時の指導に生かす。 (次時の指導への生かし方) ・間違った理解の場合には訂正。 ・調べた情報の内容が浅いと感じた場合には資料の工夫。</p>

《実践を振り返って》

デジタルワークシートを作成し、端末上で作業させること、さらに提出ボックスに提出させることで、児童一人一人の学習状況や変容を捉えることにつながった。また、1枚のワークシートに各時間の学びを蓄積していくことで、児童自身が学習の見通しをもつことができたり、自身の学びについて振り返ったりすることにもつながった。これまでの、ノート主体、紙ベースのワークシートで学習を進めていたときに比べ、「提出ボックス」の利用によって回収の手間が省けること、さらに「画面一覧」を見ることができるので、児童の学習状況をリアルタイムで把握し、効率的な机間指導につなげることができるようになった。

今後、グループワーク機能を活用してのデジタルワークシートの共同編集など、単元の目的に応じて使用の幅が広がるようにも感じられる。

まずは、単元の中でどのような力を身に付けさせたいのかを明確にし、そのためにどのような活動をさせたいのかを考えると、SKYMENUの機能をより効果的に生かすことができると考える。